

最初の一步を行政が支えているように思いました。また、そのビジネス的なところが、住民のやる気と地域産業の発展に繋がっているようです。地域の特色を住民共有の財産にし、一人ひとりが町の学芸員であったり観光大使であったり、みんなが誇りと熱意を持っているように感じました。これからの町づくりに大切なことは、どれだけ地域を好きになれるか、地域の魅力を発見活用できるか、どれだけそういう思いの人を増やせるかに懸かっているように思

あわら市

第9分科会

あわらの魅力、おしえるざあ
～地域のたからを生かしたまちづくり～



群馬県地域づくり協議会事務局 青木 文聡

あわら市は、県内有数の温泉地である「芦原温泉」を核として、様々な形で地域づくりに取り組んで来た。

芦原温泉については、約130年前に田圃に掘った灌漑用井戸から突如温泉が湧いて以降、温泉街として栄えてきたとのことであった。しかし、近年は宿泊客が減少傾向にあるとのことであり、温泉街の活気を取り戻そうと、観光業のみならず、農業・商業等の異業種が連携して地域づくりに取り組んでいた。市街地近郊に位置する芦原温泉には、景勝地等の有名な観光スポットがないため、温泉街の中心に



いました。

夕食時の交流会では、副市長から勝山市の取り組みについての丁寧な講演があり、地域の特産品の食事に伝統芸能の和太鼓演奏にとおもてなし満載でした。さらに参加者全員から自己紹介を兼ねて、それぞれの活動の様子が話されました。皆さんの熱き思いに触れることができ、地域に帰って自分たちのとどこにどう活かせるか課題をもちつつ活動のエネルギーをたくさん貰った全国交流会となりました。

はランドマークとして屋台村が建設されていた。ここでは、出店する店舗を選ぶ際に店主の人柄を最重要視していることや、店主とお客さん、お客さん同士が触れ合えるように工夫を施していることなど、人との触れ合いを重視したまちづくりが行われていた。その他、各旅館の温泉を巡ることができる「湯けむり手形」を発行していること、条例を変えてまで認めてもらったという2人乗り自転車のレンタルを行っていること等、ユニークな取り組みがみられた。

浄土真宗開立の祖蓮如上人が建立した坊舎「吉崎御坊」の跡地を見学した際には、地元のボランティアガイドの方に案内いただいた。吉崎の7不思議を交えておもしろく、分かりやすい案内であり、地域外からの訪問者にとって、地元の人と交流することは大変魅力的なものであると改めて実感した。

夕食交流会では、地域の若者に力強い太鼓演舞を披露していただき、事例発表いただいたあわら湯けむり創生塾の活動からは、多くの若者が中心となって取り組んでいる様子が伺えた。年齢・職業に関係なく地域づくりに取り組むあわら市の活動は、県内でも大変参考になるのではないかと感じた。

県外の事例に触れることができたことに加え、各参加者と交流できたことも大変良い経験となった。行政や地域づくり団体等、立場の異なる全国の方から話を聞くことができたが、それぞれが自分の地域に誇りを持って活動していることが伝わり、大きな刺激を受けた。また、今回は県内の参加者全員で福

永平寺町

第12分科会

禪の里永平寺を活かしたまちづくり
～心のふるさと 永平寺へようこそ～



群馬県地域づくり協議会事務局 星野 千春

永平寺町は県都福井市に隣接し、県内最大の河川九頭竜川が中央を流れ、九頭竜川に並行して国道416号とえちぜん鉄道（勝山永平寺線）が走り、西部に北陸自動車道が通っている人口19,545人の町であり、大本山永平寺や吉峰寺、松岡古墳群など多くの歴史文化資源が集積しています。

その町の中心となる大本山永平寺ですが、昭和55年に149万人いた参拝数が平成13年には74万人と半分にまで減少してしまったそうです。それを受け、門前内の融和を図る形で観光協会組織「若永会」の新役員を決定し、毎年新しい試みに挑戦しているそうです。同会では、会議は1時間と決めてそれ以上はやらないことや、議案を事前に渡すこと等の決まりを徹底して活動しているとのことでした。

大本山永平寺の特別案内では、一般参拝では見ることが出来ない特別なお部屋も拝見させていただきました。全体的に造りが細かく、天井も通常とは違い、普通であれば角で作られる部分が丸く造られていました。この造りは高い技術が必要とのことであり、大工さんが見学をした際には、物凄く感心していたそうです。

夕食交流会は、お寺に最も近いお食事処「ほっきよ荘」、朝は宿泊先の東喜家で、特産品である「ごまとうふ」をいただきました。お昼は地元の食材を使っ

井へ移動したため、各団体の皆さんとも交流することができ、日頃の活動でこのような機会があまり持っていないことを反省しつつも、楽しく、有意義な時間を過ごさせていただいた。

この研修交流会を機に、また新たな気持ちで協議会運営に当たっていきたい。



たお弁当で、ボリューム満点でした。なかでも「地がらし」を使用した「麩のからし和え」はとても印象に残っています。

2日目は、永平寺の周辺をボランティアガイドさんが案内をしてくださいました。元々お寺は富山に建てられていたそうですが、街道があり人通りが激しかったため、座禅出来る場所を探し求めて現在の地に落ち着いたそうです。

今回感じられた事は、皆さんが永平寺を大切にしているからこそ、より良くしようと色々な活動が生まれるということです。群馬も歴史文化資源が多くあります。これらを活かし群馬の魅力をまず県の皆さんに発信し、自慢できる県だと伝えていけば、そこからまた新たな活動に繋がっていくのではないかと思います。